

お互いが支え合って

天理市立福住中学校 三年

藤尾 夏妃

「おはよう」
と友達と挨拶を交わした二日目のキャンプの朝。私が小学校四年生の時に三泊四日のキャンプに参加した時の話である。その日の朝、カウんセラ一の方が、
「今日使える水はこれだけです。各班協力して使っていくましよう。」
とペットボトルに入った水を示しながら言った。それっぽちの水では「絶対無理。」と
思った。なぜなら、ご飯は炊けないし、おかずだって作れない。水が思うように使えない中、一日過ごせるなんて想像ができなかった。ご飯は災害などが起きたときに食べるような非常時用のものだった。みんなですすれば節水しながら過ごせるかなど、水のことを考えながらその一日を過ごした。こんなに水について考え、水のありがたみを知るような日

は初めてだった。
夜のシャワーは一人二リットルのペットボトル二つと決まっていた。当時の私は髪が長くて「足りるかな、どうしよう。」と心配していた。すると、
「私、髪短いしちよつとあげるよ。」
と声をかけてくれた友達がいた。私はそのときとても嬉しくて、困っている時こそ支え合っていくものだということが身にしみて感じられた。
次の日は水を使う量は決まっていなかったが、節水に心がけている自分がいた。周りの子もそうだった。
「蛇口から水、出てるよ。」
「あ、止めやなあかな。」
そんな会話があちこちから聞こえてきた。

こんなふうには水を大切にしている人が多く増え
たらいいなと思う。現在の世界は、水問題が
最も大きな課題の一つとなっている。水不足
や水質汚濁、洪水被害など水に関して深刻な
状況におかれている人々が多い。

私が体験した、水の貸し借りは日本と世界
の間でも可能なのではないだろうか。水は限
りある貴重なものだ。一つの国が使いすぎる
と他国の人が使える量はどんどん減っていく。
降水量も影響している。日本の降水量は世
界平均の二倍と多いのだが、狭い国土と多い
人口のせいで一人あたりの降水量は世界平均
の三分の一となっている。

水資源を確保するのに日本は不利な条件だ
が、さまざまな努力を重ね、今の私たちの生
活が保たれている。水はどの国の人にとって
も生きていくのに大切なものだ。しかし、世
界人口の十人に一人が安全な飲み水を確保で
きず、三人に一人がトイレなどの衛生施設を
利用できないそうだ。少しでも節水をする
と、今どこかで水不足で悩んでいる国の人の力に
なれるのではないだろうか。安全な水を多く
確保して世界の人々がお互いに支え合って生

きていかなければならないのではないだろう
か。
水とともに生きていく。これからもしっか
りと考えていきたいと思う。県内、日本、世
界の状況にも目を向けて、一人一人の人間同
士、また国同士、お互いが支え合っている
関係になることを心から願っている。